

第2期 第6回向日市エコ地域推進委員会 会議録

- ・ 日 時 : 平成21年4月20日(月)
午前10時～11時50分
- ・ 場 所 : 向日市役所 大会議室
- ・ 出席者 : 委員 11名
中村課長 笹田係長 高津総括主任
- ・ 傍聴者 : なし
- ・ 議 題 : 1. 新体制の報告
2. 「生ごみの堆肥化」について
(1) 堆肥化方法について(委員報告)
(2) 二次発酵の土地借用について(事務局報告)
3. その他
(1) 21年度の取り組みについて

(事務局)

課長 挨拶

(座 長)

事務局が新体制となったため、各委員の自己紹介及び今までの経過を報告

(委 員)

「グリーンカーテン講習会」で発表する生ごみの堆肥化方法について、パワーポイントを使ってエコ委員に対して事前に発表

(座 長)

今後、生ごみの堆肥化を、市民にどう広げていくのか。

まず、二次処理の方法が問題となる。

その点について市としての考えをお聞きしたい。

(事務局)

前回の会議でも、二次処理をする土地のことで、市の持っている土地や、産業振興課が行っている健康農園を利用できないか、担当課にたずねたところ、市有地の管理をしている総務課では、その土地は人が入れないようにフェンスが張られていて使えない。

また健康農園では、区画が決められていて利用者の応募も多い状況で、今の段階ではなかなか協力が得られない状況であります。

(座 長)

今の報告によると、市民がいくらやっても、結果的に市がそういう姿勢で

ある限りできないわけです。

マイバッグ運動にしてもそうです。

主体は、エコ推進委員会議と言われますが、市としての姿勢をはっきりとさせていただきたい。

長岡京市は、エコ農園を作り、エコを推進する人でなければ貸し出しをしないという条件をつけている。

長岡京市ができて向日市ができないことはない。

市でも余っている市有地はあると思います。

市としてはどう思われますか。

(事務局)

今の報告は、市民農園について担当課に唐突に尋ねたもので、これから協議をしていくというのは問題ないと思いますので、その方向で進めて行くべきだと思います。

(座長)

21年度計画は、マイバッグ運動をはじめとして、市の姿勢はどうであっても進めていくことになっている。

それに対して、市はどういう形で動いてくれるのか。それを提案している。

(委員1)

近隣の市で、京田辺市や、久御山町では、環境にやさしい政策を市の中に取り込んで市の目標を決めている。

二次処理の土地の件についても市としての支援の大事な活動の一環ではないか。そこで止まってしまうと、個人で一生懸命やっても何もならない。

(座長)

二次処理の場所は、どこに求めるのですか。農家組合と協議をされたのですか。

国は、遊休農地を活用しようとする問題がある。市はどこでどういう形で支援されるのか。しいては、向日市の環境問題や地球温暖化問題にもなると思う。

(委員1)

私も小さな庭があるのですが、庭のない人は大勢いる。

そこで花を作るのはいいけれど、一次処理をしたものをどこへ持っていけばいいのかと言われたとき答えようがない。この土地へ持って行けば埋めてもらえると言うことができれば進んでいく話ではないか。

(委員2)

一次処理はダンボール1つあれば家庭でできます。費用がかからないとな

ると二次処理はやはり土に埋めることです。

コンポストを使う場合、一次発酵をしたものを入れると自然と二次発酵ができて失敗もしないように思います。

コンポストを置くスペースもなく、それでもやってみたいと思われる方はやはりどこかへ持って行って埋めるしかありません。

(委員 3)

一次処理をしたものを乾燥させれば、必要なときにプランターに入れて土を改良させる。また臭いもありません。

(委員 4)

家庭から出る 1 日分の生ごみ、約 500 グラムは、地面のある人は、年中自分のところで堆肥化ができるけれど、地面のない人の方が多い。6～7割の人がないとしたら、その人達はどうするのか。この問題はきのうや今日の話ではないので、どこか土地を借りられたらと思います。

「琴の橋」の前の畑でひまわり園ができるのなら、二次処理はそこでできるのではないかと、という話も会議の中で出ている。

また、皆さんにお貸ししている土地を長岡京市と同じように、堆肥化を条件として貸すという具体的な案も出ているので、その具体的な話に対して市が返事をしてくれないと、話をもっていったら、断られましたではすまない話だ。

(座 長)

消費者の会の会長も、亀岡へ研修に行って生ごみの堆肥化をされている。

(委員 5)

消費者の会のメンバー約 20 人のうち、実際に堆肥化をされているのは 2 人だけで、他の人はやってみたいけれど庭がないのでできないのです。

(委員 6)

向日市は見渡せばいっぱい土地がありますが、簡単には市の権利の関係や、むやみやたらに利用できないということは、どこかと連携をとっていかないと受け入れが難しいと思います。

まず、実験台として、少しずつやっていって、それを認めてもらって信頼してもらい広がっていく段階をとらないとできないだろうと思います。

(座 長)

今、上植野や鶏冠井や西ノ岡に農園があるので、その農園を先ずエコ農園という形ではじめていくことができたらいというのが私の意見です。

(委員 6)

今話を最低限、健康農園の抽選のときに堆肥化をやってください、と勧

めてもらうことから始めてもらう。

(委員 7)

今度切り替えをするときにそういう条件をつけてもらうよう、市役所の中で検討してもらう。

(座 長)

西ノ岡は来年の3月31日で終了するので、次の段階でできるのかできないのか、その話を今から進めていかないと。

(委員 7)

それを市役所の中で積極的に検討してもらいたい。

(座 長)

それをお願いできませんか。

(委員 7)

減反政策の中で、ひまわりを植えていますね。

その一部で1年だけ借りられませんか。

(座 長)

それを前回提案しましたが、その担当課とはどういうつながりになっているのですか。

(委員 7)

ひまわりを植えるにしても委託費を払っていると思います。

今年はその予算はついていないので、来年に向けて予算措置をしてもらわないとしかたがない。

(座 長)

グリーンカーテンの問題から堆肥化についてここまでやっているのだから、市民が集まられたときに、二次処理の質問があれば、はっきりさせていただけます。

(委員 7)

ゴーヤができた後の葉の処理についてはどうするのか。

その葉をごみで出すというのであれば、目的から言えばおかしいと思います。今から申し込まれる人には後の処理について言っておかないと。

(委員 2)

ゴーヤをはじめ、作物の余ったもの全部堆肥化にできます。

(委員 7)

ゴーヤを作りたいと言って目的を達成した後の葉をどうするのか、ということまで言わないと。

ゴーヤの苗がもらえるのもらっておこうというだけに終わってしまいま

す。

(委員 2)

ゴーヤの葉をごみに出してしまえば意味がない。

(委員 7)

後の処理まで言わないとみんなごみに出してしまいます。

(委員 3)

市民農園をエコ農園という形でやってもらうことが、先ず第一段階です。

(座 長)

それを今から産業振興課と話し合ってもらい、今後エコ農園という形をとってもらえないか。

一般財源から 7 億円余りがごみ処理に使われている。これからの問題として、ごみをいくら削減すればどの程度予算が減るのか。

長岡京市では、エコ農園で生ごみの堆肥化をしてごみ減量化に取り組んでいる。

二市一町でごみ削減に取り組んでいかなければならない。

そうでないと一過性に終わってしまいます。

いつでも言っていますが、マイバッグ運動にしても一過性で終わらせたくない。なぜ市を挙げて取り組んでいただけないのか。この庁舎の前に垂れ幕でもかけていただけないのか。

(委員 7)

向日市の行政が本当にごみを減らそうという気持ちがあるのかないのか。

京都府や国から言われて、こういうものを作っているということに終わってしまうから。

(座 長)

地球温暖化防止についてもそうです。何を主体にやっていくのかということです。それが大きな課題になると思います。

(委員 7)

それはそうです。

このままいけば、ごみは絶対に減らないと私は思います。本当にごみを減らすという気があるのかないのか。

(委員 4)

この会も 3 年目に入って、今年度予算がとれたのは、グリーンカーテン講習会、環境市民講座、廃食油回収事業の 3 つで、向日市一掃クリーン作戦、ごみ減量のしおり作成、不法投棄。この予算は大きくて、環境保全の方は、わずか合計で 2 5 万円程度。

エコ推進委員会議は、レジ袋削減のマイバッグ運動をしてきている。

もうひとつ何か取り組みがないかということで、やっと具体化になったのが、生ごみの堆肥化という話です。

それと今言った3つとはすれちがっているように思う。

グリーンカーテンは各個人がやってもらえばいいのです。もうひとつの取り組みとして、生ごみの堆肥化について具体的にここまでやってもらっている。一次処理は各自でできるけれど、二次処理ができないので何とかならないかというところで止まってしまっている。

もし、二次処理が具体的にならなければ、座長の言われたように、1・2回の講習会で終わりになってしまう。それでは困るので皆さんが市役所に要望をしていることを理解していただいて、具体的に動いていただきたい。

(事務局)

すぐには目に見えるものが出ないかもしれませんが、一応検討し、一から協議をしておして、進めていきたいと思えます。

長岡京市のエコ農園を参考にさせていただいて進めていきたいと思えます。

(座長)

今年度の予算の中で、動く範囲はできていない。

私たちはボランティアとして動きますが、しかし、運動に対する問題を聞いていただかないと、何のために会議をしているのかわからない。

常に言っていたのは、環境の提案型は終わっている。これからは、実行に移らないといけない。

実行に対する予算は必要ではないか。

向日市は環境に対する予算はあまりにも少ないし、二次処理の話もできない。となれば我々は何のために提案し、何のために時間を費やして会議をしているのか。何もならない。

マイバッグ運動でもマンネリ化してしまって、結果的には何もならない。

この会議に事業者を呼んで行政も交えて討論するようなそういう場を設けてほしいと言っていたが、やっと去年の12月に市長名の文書を持って各事業所を訪問した。

(委員7)

これまで3年間やってきたけれど、いろいろな課題がある。

それを事務局で、できる、できない、検討するというように整理をしてもらいたい。

私がこの会議に参加したときから言っている、向日市まつりではレジ袋やトレーを使用しないようにと言っているが一向に進まない。

(委員 6)

まつりでは、ごみの分別は進んできています。

(委員 7)

向日市が主導権を握って、まつりの実行委員会の中で布石を投げ込まないと進んでいかないと思う。

(座 長)

京都市の食堂や、ほとんどの大学の食堂は割り箸をやめて塗り箸です。そこまでごみの削減をしようとしているときに、向日市も力を入れてもらわないと、市民に対して啓発運動はできない。

(委員 6)

長岡京市と大山崎町は推進条例ができていますが、向日市はまだできていない。法整備を早くしてもらわないと、基本的な姿勢が足りないと思う。

(委員 7)

座長の言うように、しようと思えば段階的にできる。

まず、最初に職員の昼食を割り箸からマイ箸にするとか。

(委員 4)

皆さん、いろいろな意見があると思いますが、今日は生ごみの堆肥化の発表があったのですから、どのように進めたらいいのか。

2時間のグリーンカーテン講習会に、堆肥化の話をするのは、時間が足りないように思う。まだ、この会の人達は素養があるけれど、聞きに来る人達は何もわからないので、30～40分話をしてもらっても、言うことは解っても、どうするのかということになれば2時間は必要です。

(座 長)

グリーンカーテンでゴーヤの苗を渡すから人が集まるけれど、生ごみの堆肥化のことだけでは人は集まらないと思う。

環境フォーラムのときも、エコ推進委員と市の職員と消費者の会で一般市民は少なかった。

グリーンカーテン講習会はどれくらい時間がかかりますか。

(事務局)

メインはグリーンカーテン講習会です。

(座 長)

堆肥化の話をして別の日にしたとしても、生ごみの堆肥化や割り箸の問題について、商工会や他の諸団体に呼びかけて人を集める自信はありますか。

あれば結構ですが。

今までの話からして、21年度の案件はグリーンカーテンが主たるもので

すか。

(事務局)

グリーンカーテン講座は一つの事業であって、その中で堆肥化の話も含めて、グリーンカーテンの土作りから、という話であればいいのではないかと
のことで、同じ日にさせてもらった。

(委員 4)

グリーンカーテンなんていうものを、向日市の新しい政策のひとつだとい
われるのはおかしいという意見がある。

生ごみの堆肥化であれば、ごみの減量化が一番大きく、エコや環境に対し
てのアピールもある。

(事務局)

グリーンカーテンもりっぱな温暖化対策です。部屋の中の温度を下げるこ
とにより冷房費用も抑えられる。

その中で堆肥化も進めていただければ一石二鳥になります。

(委員 5)

グリーンカーテンはゴーヤの苗をもらえるから市民の方は来られる。種か
らでは大変なので、この講座に行けば苗をもらえるからとの思いがある。

(事務局)

ゴーヤの苗がなければ来られないと思います。

(座 長)

昨年、乙訓保健所でグリーンカーテンの講習会が開催され、60人の参加
者にゴーヤの苗を2株配布された。また、小学校や保育所など、7施設に
200株を配ったとの新聞記事があります。

(委員 5)

そのとき、向陽小学校と第2向陽小学校でグリーンカーテンを行いました。

(事務局)

今年は、第4向陽小学校が関西電力の補助を受けられ、グリーンカーテン
をされます。

先ほどからお話が出ている中で、講習会のときに、発表の場を一緒にする
ことは今回難しいと思います。

ご意見のあったように二次処理のことを、まだ整理していない中で、堆肥
化ということを全面的に出してしまうと、二次処理の問題はどうするのか、
ということになる。

ある一定の整理がついた中でそういう場を設けるとい形の方がいいので
はないかと思います。

ただ、そのやり方等については、慎重に考えさせていただきたいと思いません。

今回一緒にすることは、難しいと思いますので、今おっしゃったように、パワーポイントを見ていただくだけになってしまうと思います。

今後堆肥化について、講習会的なものをやっていくという方向性を決めて進めていく。

(座長)

私は環境市民講座と併せた方がいいと思います。

時間的にグリーンカーテンのあとでは時間が短かすぎます。

(委員4)

どういう形にしても2時間は要ります。

(委員2)

私たちの発表は、堆肥化ができるという方向性であります。今はまだ失敗はしていませんが、今後失敗はあると思います。

私としては、失敗をどれだけたくさんしてみるか、というのが皆さんにお教えする一番のポイントだと思っています。上手くやっていくのはだれでもできます。

私の考えとしては、ここにいる皆さんは、生ごみの減量化にある思いを持っておられる方が多いので、できればエコ推進委員の方が、先ず最初に家庭でしていただいて、土地のある方は自分のところでされて、ない方はどこかあるところへ持ってきていただいて、埋めていただく。私のところでもいいですが。

そういう形で、市がすぐにできないのであれば、私たちができる範囲でやれるのですけれど。

半年でも1年でもやってみて、皆さんが先ず生ごみの堆肥化のプロになっていただく。その皆さんの中から一人でも二人でも出てきていただいたら、自然と輪が広がる。

(座長)

私も畑を持っていてやっていますし、失敗もしています。やることはいいのですが、市との話は続けていって下さい。

市はごみ減量に、どういう方向性をもっているのかをはっきりさせてください。

(委員2)

私たちのやっている間に決めてもらえばいい。

(委員 4)

それもやるとおっしゃっているのです。

今の提案については、このメンバーとしてはイヤとは言えないでしょう。

(座 長)

ところで、今年は第4向陽小学校でグリーンカーテンをするのですか。

(事務局)

今年は第4向陽小学校ですと聞いています。

(委員 5)

京都府と市からと関西電力が協賛で。

関西電力から応援で来られます。

(座 長)

この間の総会で、琴の橋でゴーヤを植えようという話をもっていった。

エコ推進委員会が知らないうちに、関西電力が第4向陽小学校でグリーンカーテンをすることを今はじめて聞いた。

グリーンカーテンはどこでやってもいいのですが、市民サイドで予定していたのに。教育委員会とエコ推進委員会とは一体になっていないのではないか。

(委員 5)

一体になってないと思いますよ。

市よりも先に京都府がはじめて、関西電力も応援しましょうということで作られていると思います。

(座 長)

やはりエコ推進委員会でグリーンカーテン講習会をするのでしょ。

第4向陽小学校では京都府と関西電力と組んでする。

(委員 8)

いろいろな不満が出ているようですが、代が変わると引継ぎがうまくいかない。

課長にお願いしますが、今までの経過を見ていただき、新しいアイデアも入れられて、私たちと共にこれからやっていってほしいと思います。

あまりにも今日は不満が出すぎたので、いろいろなことをやっていく上において、これでは私の思いと違いますので、一言申し上げます。

(委員 4)

不満ではなく、意見として出ていて、物事は進んでいるので、意見は解るが、具体的な話が進んでいない。

(座 長)

老人クラブでグリーンカーテンをしようというときに、学校ですることが決まっている。

(事務局)

学校でするのは、補助の事業で、つい最近決まった話です。

(委員 3)

私がこの会に入って一番最初に提案させてもらったのが、第4向陽小学校の給食の調理かすを堆肥化して、その土で生徒が野菜を作る。しかし、それは提案しただけとなっている。

今回、向陽小学校でゴーヤを植えて、ごみの堆肥化をして、子供達に堆肥化した土を使って野菜を作ってもらえれば一番いいと思う。

(委員 4)

まだ一度もコンタクトをしていないのですか。

(委員 3)

以前から思っているのですが、行政からの後押しがないと、私たちが勝手にはできない。

調理の野菜くずを学校にある畑に埋めればいいと思う。

(委員 2)

調理用の生ごみはとても有効ですが、食べ残しは使えません。

(委員 4)

第4向陽小学校とのコンタクトは難しいのですか。

(座 長)

そのことについて、新しい校長や教頭と話してみたいと思っている。

(委員 4)

グリーンカーテンと同時開催は難しいようなので、別途委員会として設定しましょう。人の集め方ですが、

(委員 3)

人の集め方は、市民農園で仲間がいますので、そこから講習会をやってほしいとの声があがっています。

(委員 4)

できるのであれば別途日を設けては。

(委員 2)

やはり興味のある人が来た方がいい。

(事務局)

今回は、中途半端な時間かもしれませんが、考えていただくきっかけとし

で講演をしていただき、その後で考えられて実際に行動に移してもらえないかもしれない。

たった30分ということで、効果がなくやめようというのではなくて、やはり30分は30分なりの効果はあると思いますし、その中でPRをしていただければありがたいと思います。

話をしなければ、来られた方は、何もやらないまま帰っていかれるけれど、そこで一言言うことで、考えていただける機会ができるのであれば無駄ではないと思います。そういう小さな積み重ねの中から生まれてくると思います。

(座長)

次に、ごみ削減について、どれくらいごみを減らせば、どれくらいの予算が減らせるのか。事務局から報告をお願いします。

(事務局)

乙訓環境衛生組合にたずねましたところ、身近な話として、今の経費というのは、固定経費である建設経費で、その償還がほとんどとなります。

運転資金というのは、たとえば5%、10%のごみが減ってもそんなには変わらない。この効果が出てくるということになれば、今の焼却炉が使えなくなって、次に建設をするときになれば、1トン当たり5,000万円の建設経費がかかるそうです。今の焼却炉が1日150トンの処理能力があるので、10%削減した場合、15トン×5,000万円で7億5,000万円の削減になるという話になりますが、140トンの処理量で10トン減ったとすると、経費が変わらないのに、今まで140トンで割っていたものが、130トンで割ってしまうと、1トン当たりの単価は高くなってしまいます。

そのあたりが、数字に出してしまうと逆になってしまいます。

このようなことを言うてしまうと、今度は矛盾が出てきてしまいますので、数字を出すことは難しいということになります。

(委員4)

今の話は大まかな話しで、ごみが減った分だけお金は減るわけです。

減ったら焼却炉の大きさも小さくてすみます。

ごみというのは減ったら儲かるに決まっている。説明できないだけです。

(座長)

時間も迫ってきましたが、堆肥化の発表はどうしますか。

グリーンカーテ講習会のときにしますか。

(委員6)

やってもいいというのであれば、私はやってほしいと思います。

(座 長)

それではやりましょうか。

(委員 4)

今決まったので、やることについてはいいです。

また、講習会とは別の日にもしましょう。来る人がまったく違いますから。

(事務局)

その時は、参加者募集にご協力をお願いします。

(座 長)

以前から言っているとおり環境はひとつです。

学校での環境の取り組みについて、エコ推進委員会議としては、何も知らず、新聞や広報紙で知ることがある。

今回の、第4向陽小学校でグリーンカーテンを実施することについても、今日始めて聞かされた。

第4向陽小学校は、老人福祉センターの琴の橋があって、学校との交流もしている。

グリーンカーテンについては、これから学校とも話しをしていこうと思っていたところであった。今日の話聞いて行っても無駄だ。

(事務局)

グリーンカーテンはすでに済んだ話ではなく、今から取り組む話ですので、一緒にやっていただければと思います。

(委員 6)

前回の会議で事務局から、いろんな所で協力をお願いしたい、と言われたので、第4向陽小学校のグリーンカーテンの話だと私は受け取った。

(委員 3)

関西電力は何をされるのですか。

(事務局)

ネットを止めるための金具の取り付けや、ネットの張り付けで、一番難しいことをしていただいて、費用は無料です。

(委員 4)

第4向陽小学校のことは教育委員会と話をするのですか。

(事務局)

そうです。

(委員 4)

教育委員会と話をし、別に引き下がる話でもないし、急ぐ話でもない。

(座 長)

教育委員会、校長とルートを通して話をしていかないと。

完全に縦割りです。

(委員 6)

今日は廃食油回収の話はなかったのですが。

(事務局)

6月ぐらいから実施したいと思っておりますが、要綱がまだ未確定ですので、確定しだい連絡をさせていただきます。

地球温暖化の実行計画で向日市の事務事業から排出される温室効果ガス削減目標ですが、先ほども座長からご指摘がありました。3月末で作成が終わりまして、削減目標を19年度比で5%削減といたしました。この目標に向け努力してまいりたいと思っております。

その中で、市民の目から見ていただくことが大事だということで、この推進委員会議の皆さん方に推進の報告をさせていただいて、それについてご意見をいただくという形を盛り込んでおりますので、ご協力をよろしく願います。

推進ということですので、1年経ってどれだけCO₂が減らせたかという報告となりますので、今年度の報告はなく、来年度以降、ご意見をいただいて、推進を図っていこうと思っておりますのでよろしくお願いします。

(座 長)

ありがとうございました。

それではこれで終了いたします。皆さんご苦労様でした。

《 各委員表示 》

委員 1 戸田 英四

委員 2 谷本 於規光

委員 3 米津 惟

委員 4 有信 文晶

委員 5 津田 信子

委員 6 小林 澄子

委員 7 尾林 隆

委員 8 木下 曉